

「京都の歴史を歩こう！一下鴨編一」歴史 遠足報告

壁谷 奈央

2015年11月7日、京都府立総合資料館寺子屋講座として文学部歴史学科と共同で開催した歴史遠足「京都の歴史を歩こう！一下鴨編一」をおこなった。この遠足では、人々の暮らしに着目し、下鴨の歴史を紐解いていった。下鴨地域のどこを取り上げるのか、どのような解説をするのかなど、学生が主体となって取り組んだ。

1. 出発

遠足当日、学生は出発地点である京都府立総合資料館に9時半に集合した。あらかじめ用意していた遠足のしおりと名札を準備し、参加者の方を待った。当日飛び入り参加を希望する方もいて、予定よりも参加者は数名多くなった。名前をうかがい、名簿にチェックをし、しおりと名札を渡した。今回の遠足では、前回行われた上賀茂編を参考に2つの班に分けた。

10時前には、参加者約20名が全員揃い、学生1人につき参加者を2、3人のグループに分け、解説地点までの案内を担当した。学生代表から挨拶と遠足の概要説明をし、遠足が始まった。学生の先導に従い、資料館を出発する前に下鴨の地名について、遠足で通る地名と、遠足の終着点である「糺」についての解説をおこなった(写真1)。

2. 萩児童公園

参加者の方と自己紹介をしつつ、住宅街を歩き、最初の解説地点である萩児童公園へと向かった。萩児童公園では、公園近くの地蔵、公園内のラジオ塔と洛北地域の土地区画整理の記念碑の3箇所解説した。それぞれ、わかりやすいようにスケッチブックや地図などを用いて解説をおこなった。途中クイズをおこない、参加者の方が楽しめるように工夫した(写真2)。



写真1 地名の解説



写真2 萩児童公園内ラジオ塔でのクイズ

大半の参加者の方々は、はじめて見るラジオ塔や地蔵が建てられた経緯、地蔵盆の解説を興味深く聞いていた。解説には含まなかったが、葵小学校のプール跡について各グループ担当の学生が説明しながら、次の解説地点へと移動した。

3. 疏水

公園から少し歩き、琵琶湖疏水分線までたどり着いた。ここでは、しおりに載せていた地図を活用しながら、下鴨を語る上で重要な「水」について触れた。江戸時代から現在に至るまでの下鴨地域における「水」について掘り下げ、疏水沿いを移動し、次の解説地点へ移動した。

歩いている途中には、地蔵が祀られている場所があった。参加者の中には、移動途中に見つけた地蔵に、地蔵盆の説明を思い出し、他にも地蔵が祀られていないかゲーム感覚で楽しんでいる方もいた。

4. 中川原公園

休憩場所の中川原公園までの道には、交通量が多い上に狭い道があり、交通安全に十分注意しなければならなかった。参加人数も決して少なくなかったため、交通規制係が声をかけながらの移動となった。

この公園では、下鴨神社にゆかりある祭事について解説をおこなった。下鴨神社で一番有名な祭事といえば、葵祭が思い浮かぶ。しかし、ここで解説したのは御蔭祭である。御蔭祭の神事を中川原公園でおこなっていること、葵祭は既に知っている人も多いことから御蔭祭についての解説となった。熱心にメモを取りながら解説を聞いている方もいて、関心の高さを感じた。公園には、近くにスーパーもあり休憩中に立ち寄りたり、ベンチも多くあったのでちょうどいい休憩場所であった。

休憩後、最終解説地点であり、遠足のゴールでもある河合神社に向け出発した。河合神社までは入り組んだ住宅地を移動した。萩児童公園周辺とは違い、宅地の需要に伴い整備が行われていないまま住宅地として急速に発達したので、入り組んだ住宅街になっている。

5. 河合神社

河合神社まで、下鴨神社の境内を進んだ。休日ということもあり、人通りが多く担当学生がグループの参加者とはぐれないように注意を払った。

河合神社近くの広場で、河合神社と下鴨デルタについて解説（写真3）を行ったが、現存しないものを感じる時間であった。絵図や文書などを通して現在まで続く認識を知り、充実した時間だったと好評価をいただいた。

すべての行程終了後、参加者にはアンケートに協力していただいた。ほとんどの方が、面白く、よかったという回答をしていただい



写真3 下鴨デルタの解説

た。中には歴史に造詣の深い方もいて、担当していた学生や、解説担当者に個別に質問をしている姿も見られた。解説だけで、参詣していなかった河合神社や下鴨神社へと足を運ぶ方もいた。しおりに下鴨神社からの交通情報を載せていたため、解散後は迷うことなく帰路につかれたようである。

6. 遠足を終えて

解散後、13時半頃から、反省会を行った。アンケートの意見や、今回の問題点、次回へと引き継いだ方が良い点などを話し合った。今回の遠足は、前回の反省点を踏まえ、より良いものになったのではないかと感じた。開始前の受付や解散後の行動など、前回では円滑にできなかった部分も改良できた。前回からそれほど時間が経っていない時期での本番であったため、事前準備では苦勞した部分も多かった。調査から解説の練習まで協力し合い、好評価をいただくことができ、よかったと感じている。

今回の遠足で、自身が学んだものを誰かに伝えることの難しさを実感するとともに、貴重な体験ができた。得られた経験を今後生かせるようにしていきたい。